

早苗打つ

山田真砂年

ガウデイの設計めきて羊蹄は
作り滝スタバのカップ浮いてをる
青蛙鳴き止まぬ辺に思案せり
郭公を聞けば三時のおやつかな
手づかみで食ふ山女魚の歯ちくちくす
南無南無と仏の前に蚊の来たり
むかし男ありけり更衣へにけり
牡丹の影のぬばたま底知れず
ヒューヒューと息吸う音や鯉幟
新樹光サラリーマンはため息す
芍薬も薔薇も蟻這ふところなり
鉄線の路地は風抜けやすきかな
野仏に十円玉や余花の径
新緑のうちかさなりて陰生まる
アカシアの花の盛りを浅間噴く
緑陰に美味しうましと水飲めり
菖蒲田やささやくこゑのただよへる
田を植ゑてにぎやかな列並びをる
早苗打つ顔に歓喜の泥の粒
余り苗浅間はうすく煙噴く
ずずずいと田に踏み込めり早苗植う
菖蒲葺き風の明るき庵かな
東京と匂ひの違ふ街薄暑
捕虫網パパの呼ばれてをりにけり
目高売る山の奥なる道の駅